定例記者懇談会　資料№5
平成 22 年 7 月 29 日
産業経済部お茶振興室
0548-53-2621

一番茶の概況について

平成 22 年産の一番茶は、3 月 30 日早朝の凍霜害及び 4 月の天候不順により、茶芽の生育が例年に比べて 7～10 日遅れ、5 月に入ってからの本格的な摘採となり、5 月下旬まで長期化しました。また、生葉生産量は、凍霜害直後では前年の 50～60%と推測されたが、天候の回復と適度な降雨に伴い芽伸びが良くなり、平均としては前年の約 85%という状況であります。しかしながら、地域、茶園、農家ごとに凍霜害の被害程度にバラツキがあるため、収穫実績等に格差が生じている状況であります。

1　茶生葉関係の被害状況

（ハイナン農協提供資料）

作付面積	被災面積	左記被災面積の内、被災程度別面積(ha)				
Ⓐ　(ha)	Ⓑ　(ha)	0～30%被災	～50%被災	～70%被災	～90%被災	～100%被災
2,610	(505) 2,204	(233) 1,641	(150) 395	(53) 91	(21) 30	(47) 47

※　上段括弧書き数値は、各被災程度別面積の内、生葉収穫ゼロ推定面積である。

生葉平年反当量(kg)	無被害時生葉量(t) Ⓐ×6t	平均生葉被害率(%) Ⓑ÷Ⓐ×100	被害生葉減収量(t) 15,660×0.193	生葉㌔当単価(円)	生葉推定被害金額(円) 3,022×1,000×376
600	15,660	19.3	3,022	376	1,136,272,000

※　生葉㌔当単価は、過去 3 カ年の生葉価格の平均である。

2　荒茶の生産量及び売上状況

本市には、荒茶製造工場が約 220 工場あるが、その形態が個人経営、茶農協、有限会社など様々で、荒茶生産量などの全体実績を把握することが困難であるため、市内 19 の共同茶工場の一番茶実績を基にして、市の全体像を推測しております。

市内 19 の共同茶工場の茶園面積は、約 676 ヘクタールで市内の約 26 パーセントを占めており、平成 22 年産一番茶の荒茶生産量は、約 698 トンで、荒茶売上高は、約 20 億 2 千 7 百万円の前年対比約 86 パーセントの 14 パーセント減という結果でした。また、荒茶の平均価格は、キロ当たり約 2,900 円で前年並みの単価でありました。

しかしながら、早生品種に被害が大きかったことや早場所及び遅場所などの地域的な要因などにより、凍霜害被害に程度差があったため、各共同茶工場間においては、前年対比約 60 パーセントから約 110 パーセントまで、実績数値にバラツキが生じております。